

分布図からみた徳島県の方言

2

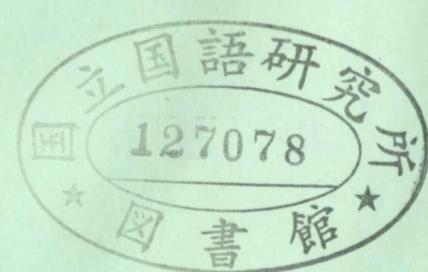


森 重幸

[日 時 の 表 現]

X もくじ

1	旧町村区画圖	14	終日
2	今日・明日	15	終夜
3	明夜	16	先刻
4	明明後夜	17	夜明・早朝
5	明明後日の晝	18	朝(午前中)
6	明明後日の晝翌	19	昼間
7	昨日・一昨日	20	夕方・夜
8	一昨日の晝	21	晝夜
9	先日	22	若干他
10	一往(今)	23	まとめ



林文庫

はしがき

本稿は、県教育委員会の長期研究生（昭和 36 年度）として、
徳島県の方言調査に従事したさいにまとめた中間報告である。

本県の方言研究については、金沢氏をはじめ、先学諸氏の有
益な成果があるが、この中間報告も、これらの成果に導かれ、
その基礎にたって概観したところである。

浅学未熟なため、独断的な面が多いと反省するが、今後、各
界の指導をうけて補正したい。

以下、各品詞、語彙、表現論、音韻などに及ぶ予定である。

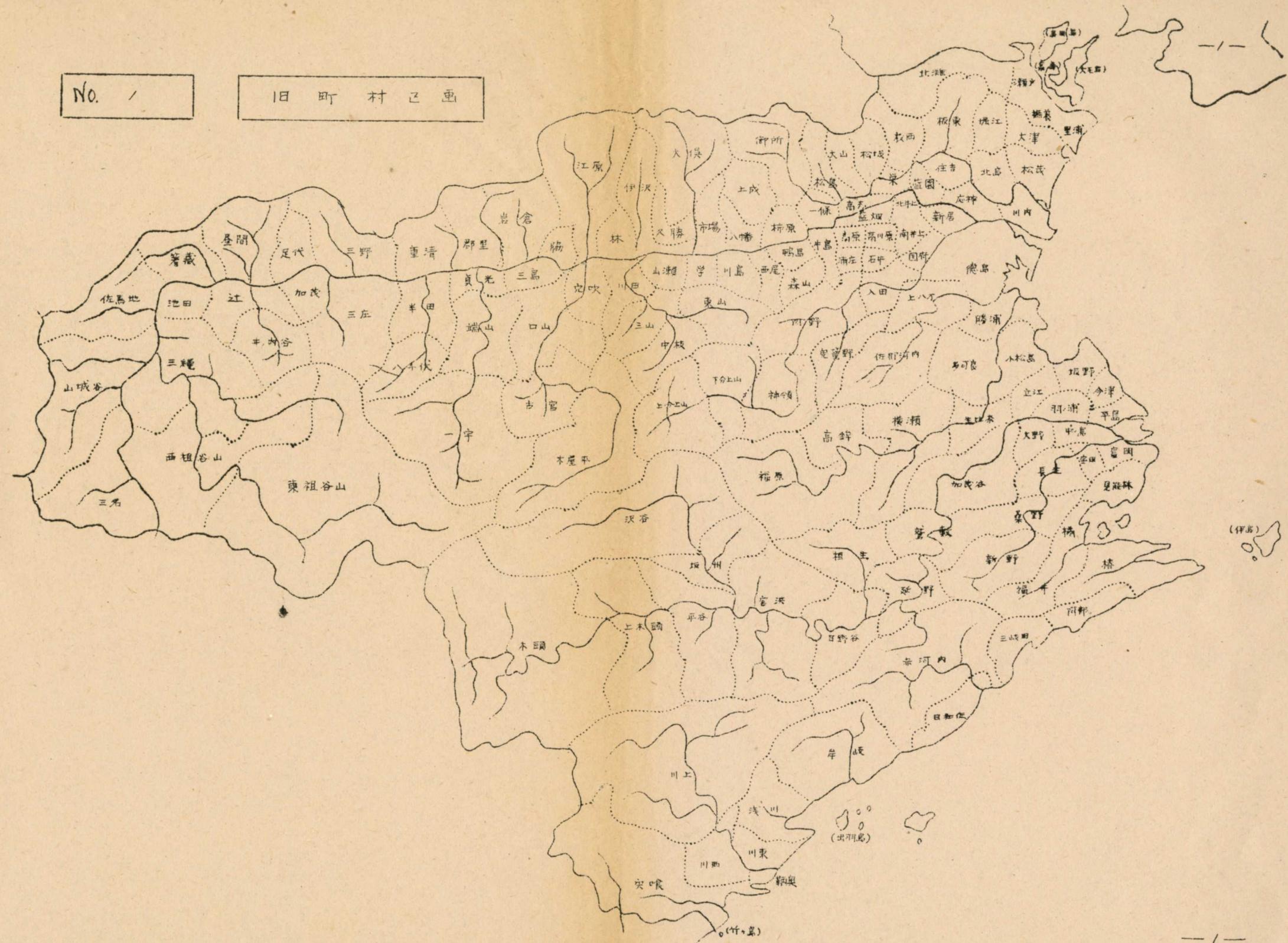
1963. 6. 30.

徳島県立城東高等学校定期制

森 重幸

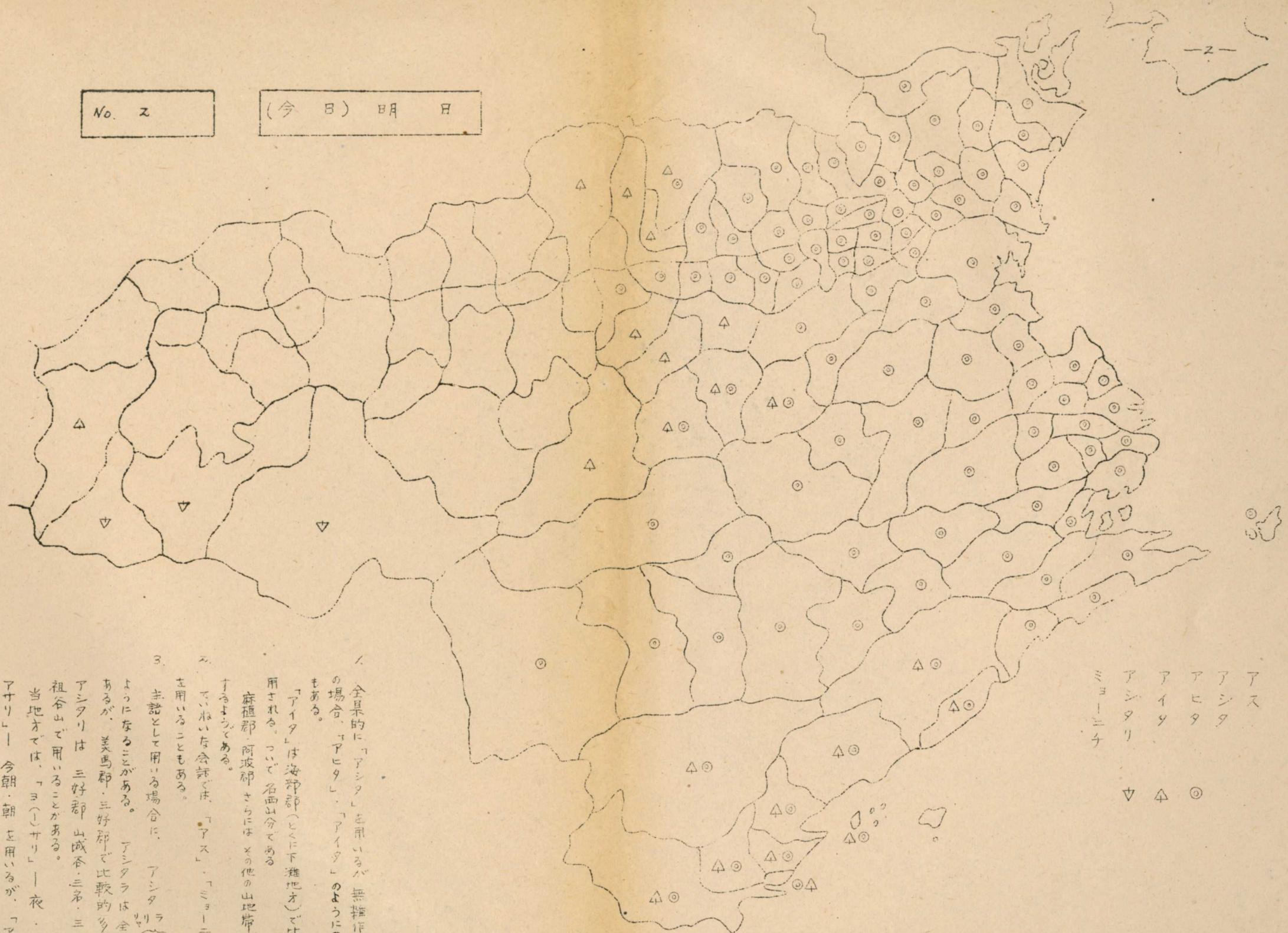
No. /

旧 町 村 区 画



No. 2

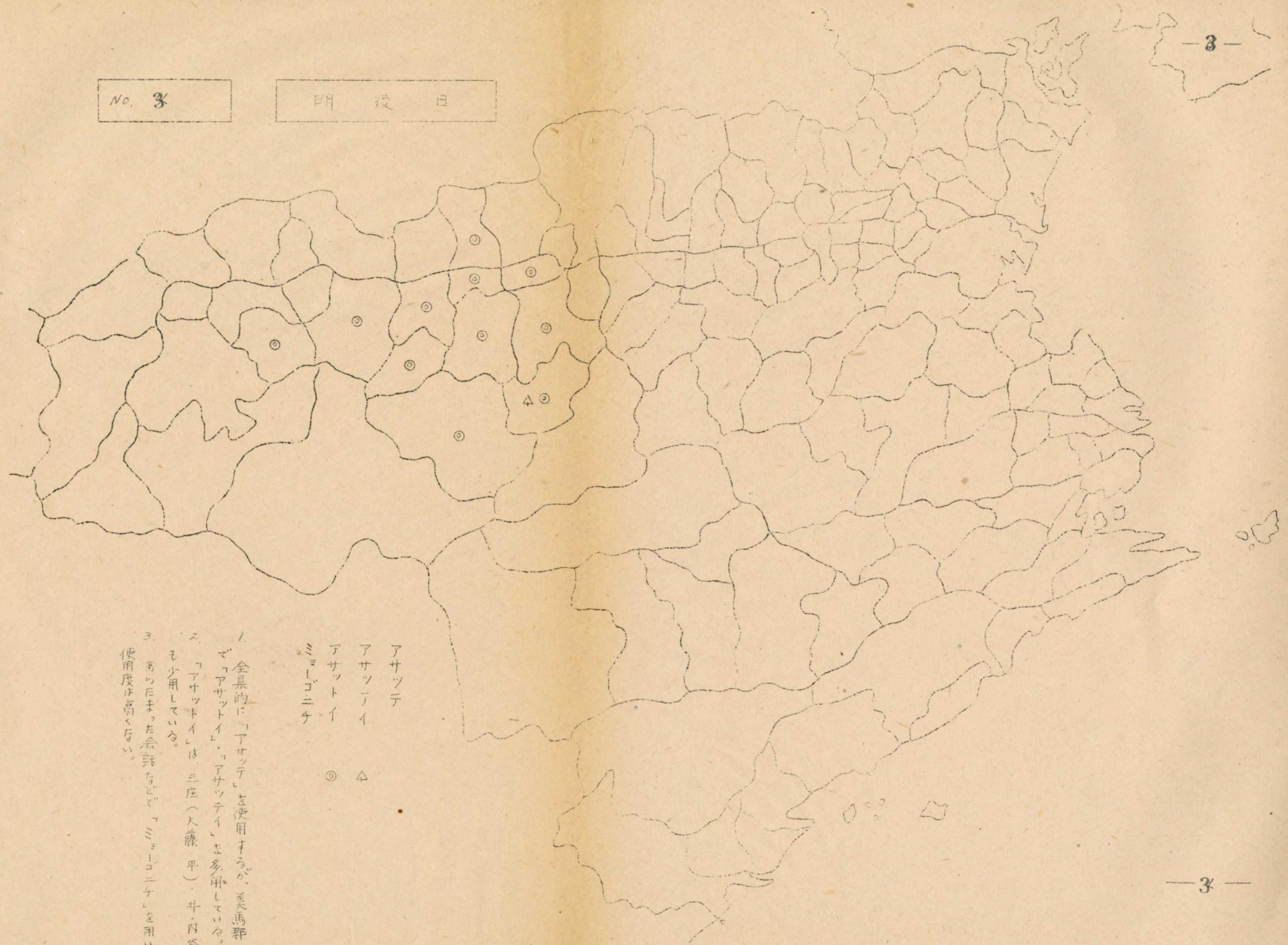
(今 日) 明 日



4. 全県的に「アシタ」を用いるが無耕作な発音の場合、「アヒタ」、「アイタ」のようになることがある。
- 「アイタ」は海部郡(とくに下濃地方)で比較的多く用される。ついで名西山分である。
麻植郡・阿波郡さらには×の他の山地帯でも少用するようである。
5. 「アス」、「ミヨーニチ」など
でいいを会話では、「アス」、「ミヨーニチ」など
を用いることもある。
6. 主諾として用いる場合に、アシタラ
ようになることがある。アシタラは全県的であるが、美馬郡・三好郡で比較的多用する。
アシタリは三好郡・山城郡・三島・三郷・東西祖谷山で用いることがある。
7. 当地方では、「ヨーナサリ」一夜、「ケサリ」、「アサリ」、今朝・朝を用いるが、「アシタリ」も「ヨーナサリ」からの類推によるともみられる。
8. 「今日」は「キヨー」だけである。あらたまた時には「ホンジツ」、「本日」を用いることがある。

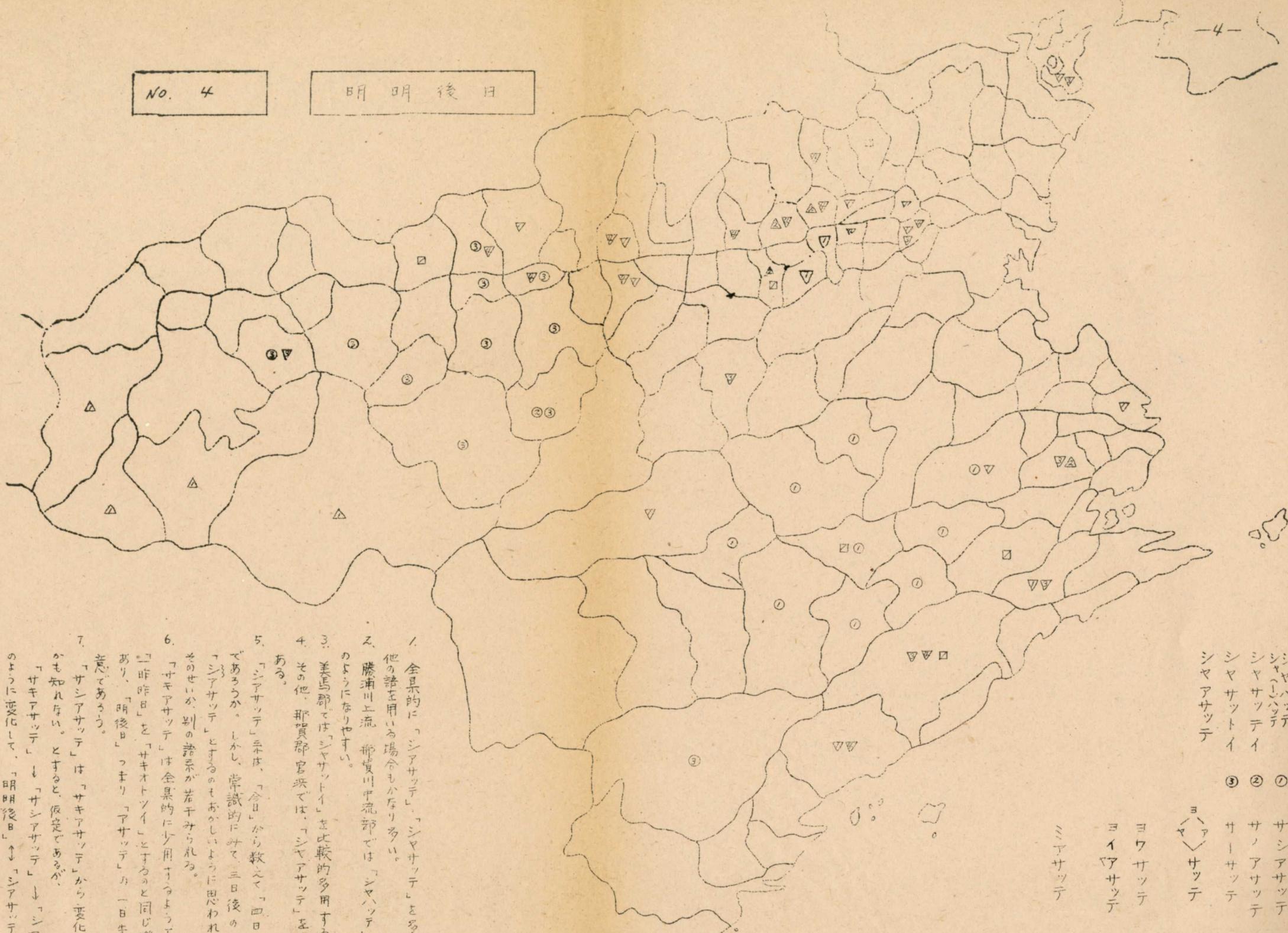
No. 3

明後日



No. 4

明 明 後 日



- 「ヨアサツト」示も、「今日から教えて」四日目の意味を
もつのかも知れない。果下に散在していふか使用一度は低い。
「ヨアサツト」の使用度もさぬめて低い。
「明後日」の名称は、「シアサツト」示をのぞくと、
明後日の「ヨアサツト」の名称と混同する場合が多い。

1. 全景的には「シアサツテ」、「シヤサツテ」を多用するが、他の語を用いる場合もあり多い。

2. 滕浦川上流、那賀川中流部では「シヤハツテ」、「シヤハツテ」のようになりやすい。

3. 美馬郡では「シヤサツトイ」を比較的多用する。

4. その他、那賀郡官浜では、「シヤアサツテ」を用いることもある。

5. 「シヤアサツテ」とは、「今日」から教えて「四日目」の意であろうか。しかし、常識的にみて三日後の名稱を「シヤアサツテ」とするのもおかしいようと思われる。そのせいか、別の語系が若干みられる。

6. 「サモアサツテ」は全般的に少用するようである。

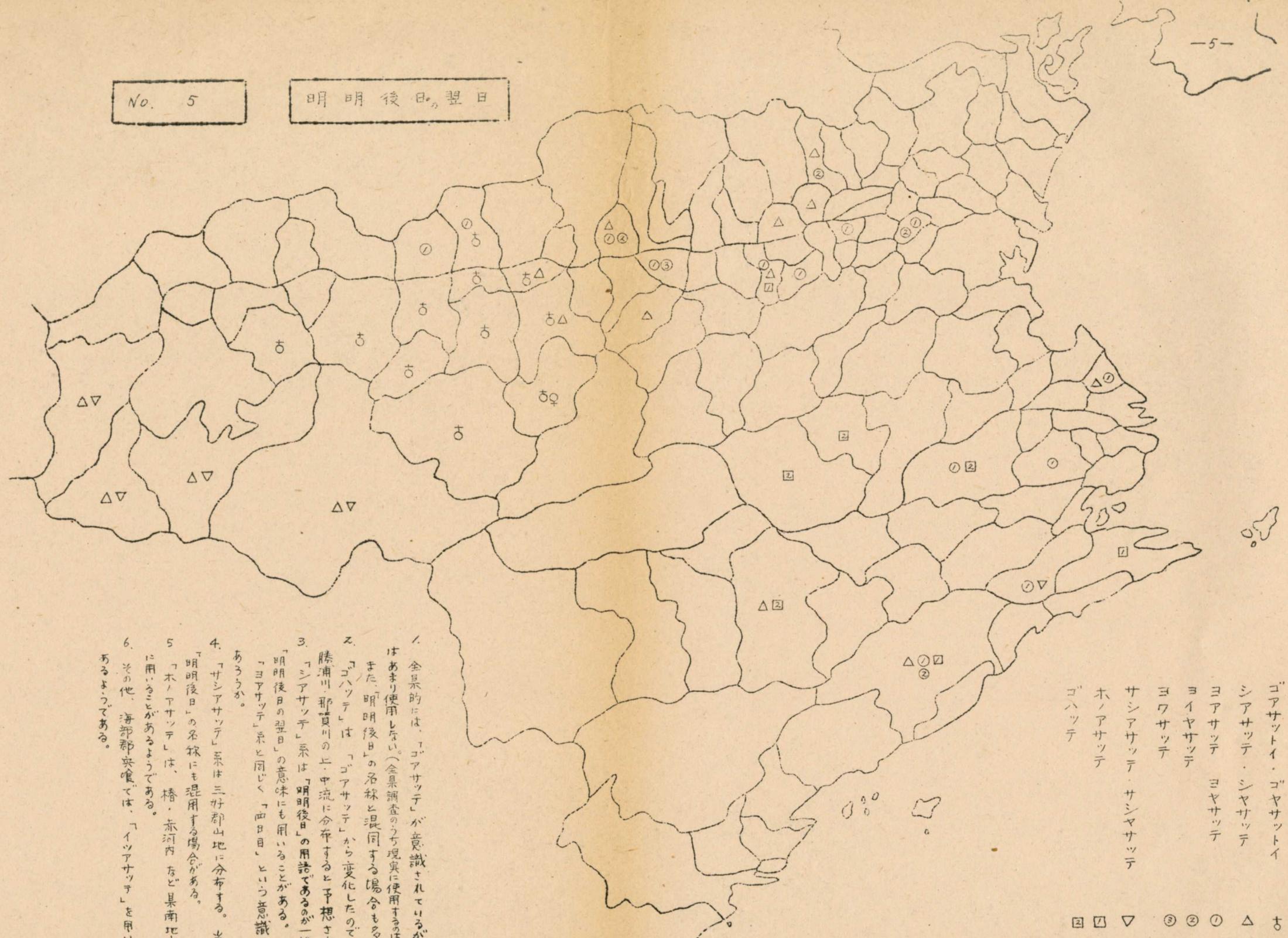
「昨日」を「サキオトツイ」とすると同じ発想で、あり、「明日」つまり「アサツテ」が一日先という意であろう。

「サシニアサツテ」は「サキアサソテ」から変化したものかも知れない。とすると、仮定であるが、「サキアサツテ」と「サシニアサツテ」↓「シヤアサツテ」のようにに変化して、「明明後B」↑「シヤサツテ」が固定したとも考えられる。

7. 「サニアサツテ」は、「アサツテ」の「つぎ」の意であろうか、「ライタニ（来年）」↓「サライキン（再来）」にも類似している。

「サニアサツテ」は、「シヤアサツテ」からの変化であろう。

8. 美馬郡口山、宍吹で少用するほか無難作な会話でそれが、



コアサツテ · ゴヤサツテ
ゴアサツトイ · ゴヤサツトイ
シアサツテ · シヤサツテ
ヨアサツテ · ヨヤサツテ
ヨイヤサツテ
ヨワサツテ

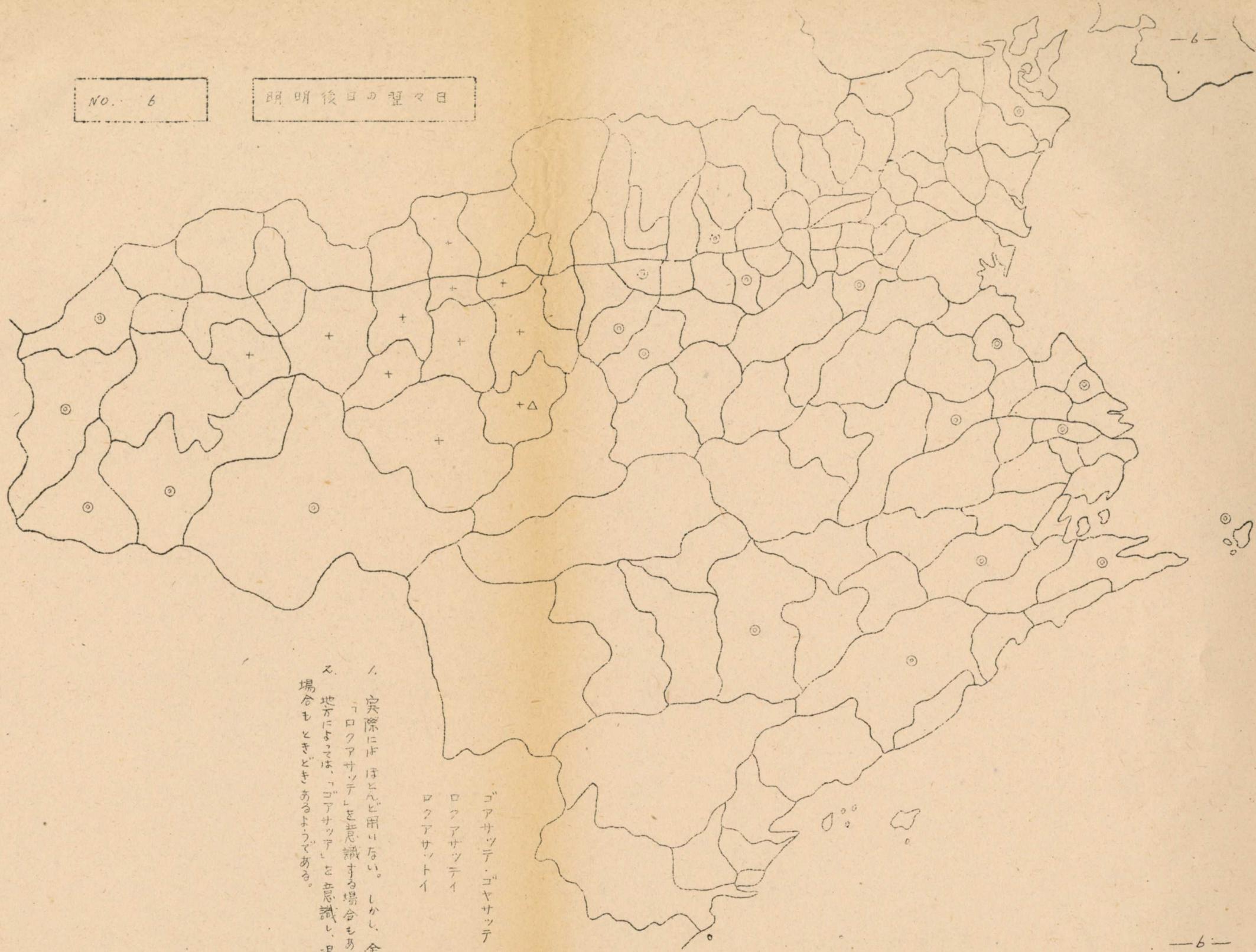
コアサツトイ · ゴヤサツトイ
シアサツテ · シヤサツテ
ヨアサツテ · ヨヤサツテ
ヨイヤサツテ
ヨワサツテ

サシアサツテ · サシヤサツテ
ホノアサツテ

ゴハツテ

NO. 6

明日後日の翌々日



ゴアサツテ・ゴヤサツテ ◎
ロクアサツティ
ロクアサツトイ
△ +

-6-

No. 7

昨日・昨日

(一) 昨日

- 7 -

⁷ 全景的に「オトツイ」、「オトイ」を使用する。

といねいな会話では、「イツサクジツ」を用いる

3.
二十一
麻植郡東山・三山などで「アトツイ」を少用する。

オトツイ・アトツイ

イツサフジチ

4. なお、「オツツイ」・「オトイ」
は、「オツツイ」・「オトイ」などの
ように複数形がある。

本居宣長

10

10

⊕ ⊖
△ ▽

卷之三

⊕ ⊖
△

◎
▽

104

卷之三

(昨 日)

全具的に「ギー」「キニヨー」を用いるが、海部郡
を主とし、海岸地では、「ギー」「キニヨー」のよう短かく發
音する場合が多い。

之、海部郡では、「ギンヨ（一）」を多用し、「ギンニヨ（二）」も七段内多用する。

3. その他の地方における訛語の使用度は高くない。

4 でいねいな会話では「サクジツ」を用いることもある。

キ
ノ
〇

十一

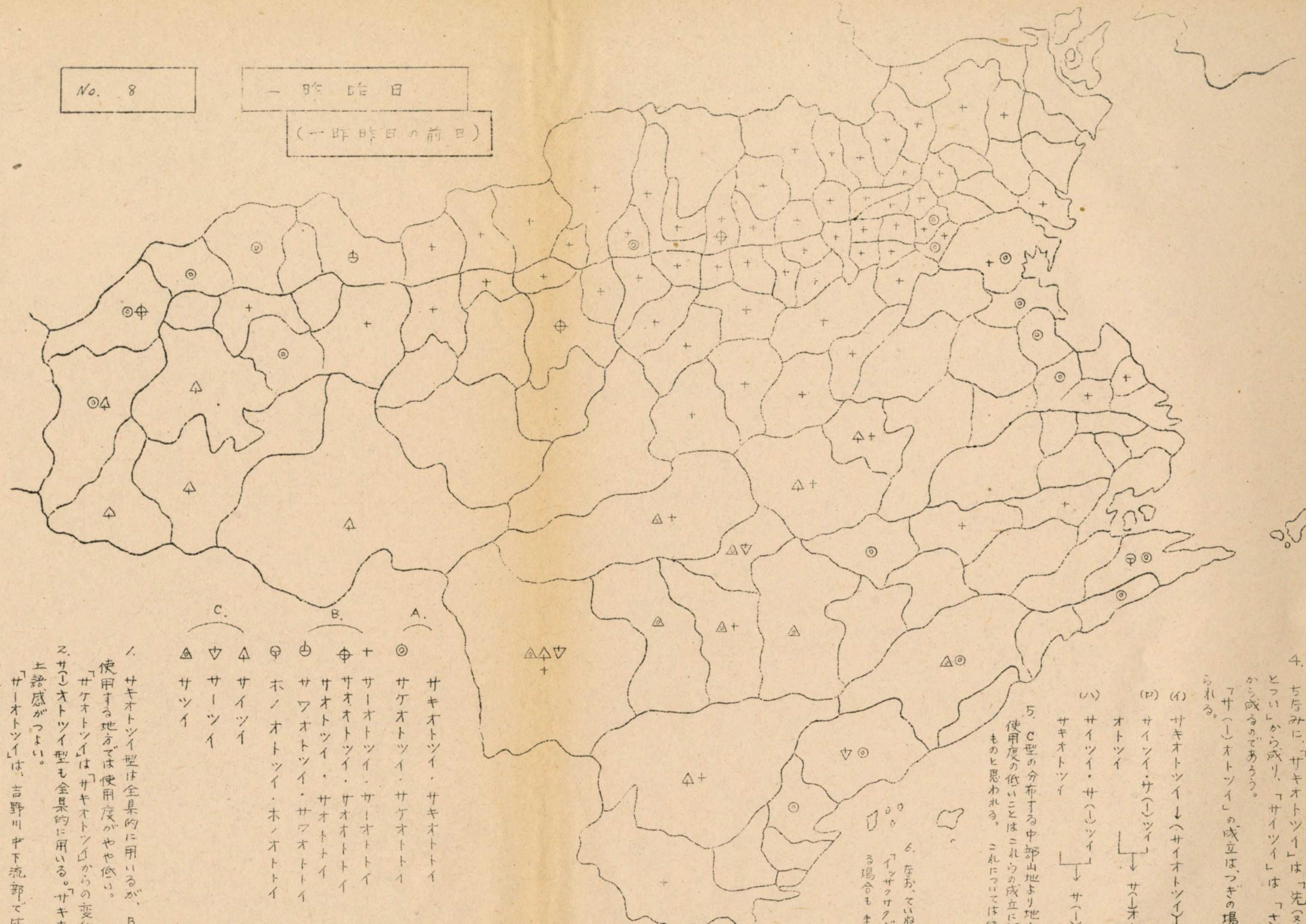
半二三

サ
フ
ジ
ツ

No. 8

一昨日

(一昨日の前日)



「一昨日」本呼称がないのが普通である。
全般的には、「四日前」とか、「コナイヤ」などを用いる。
また、「先日」およびそれに類した表現を用いている。

たゞ勝浦郡 高鉢 福原などでは、「さう」というように用いられる。
年配層が

1. サキオトツイ型は全般的に用いるが、B・Cを使用する地方では使用度がやや低い。
「サケオトツイ」は「サキオトツイ」からの変化であろう。

2. サコオトツイ型も全般的に用いる。「サキオトツイ」より土語感がつよい。
「サーオトツイ」は、吉野川中下流部で比較的多用される。

3. C型は中央山地部より、老年層が主として用いる。
今後は、A型・B型が一般化する傾向にある。

4. ちぢみに、「サキオトツイ」は「先(えは前)」が
どういしから成り、「サイツイ」は「さきつひ」
から成るのであろう。
「サ(一)オトツイ」の成立は、つきの場合が考えられる。

(1) サキオトツイ → サイオトツイ → サ(一)オトツイ
(2) サイツイ・サ(一)ツイ
オトツイ
サキオトツイ
(3) サイツイ・サ(一)ツイ
オトツイ
サ(一)オトツイ
(4) サキオトツイ → サイオトツイ → サ(一)オトツイ
オトツイ
サキオトツイ
(5) C型の分布する中部山地より地方でB型の
使用度の低いことは、これうちの成立に關係がある
ものと思われる。これについては後考したい。

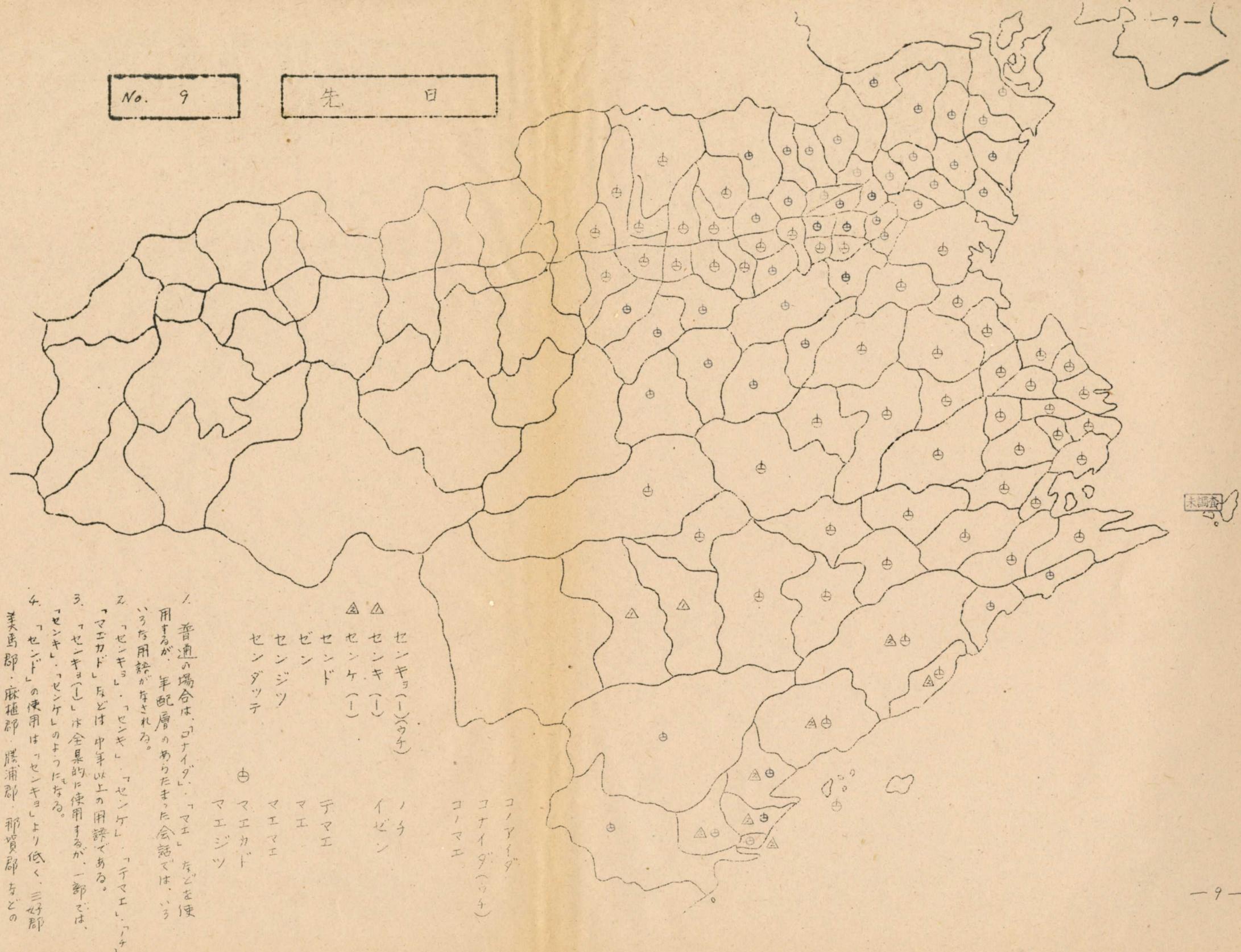
6. なお、ついねいな会話で
「イッサクナフジツ」を用い
る場合もまれにある。

No. 9

先 日

7. フマエジツレバ 阿南市構・見能林などで年配層が用ひてゐる。

6. 用ひ此全量的である。
5. フマエカドレは「センキヨ」よりも古い日時を意味する場合が多く、むしろ「先年」の意に用ひてゐる。中央山地部、美馬・三好郡などではほとんど用ひない。
4. 「センド」の使用は「センキヨ」より低く、三好郡、美馬郡・麻植郡・勝浦郡・那賀郡などの中央山地部ではほとんど用ひない。
3. 「センキヨ」は全量的に使用するが、一部では、「センキヨ」・「センケレ」のようになる。
2. 「センキヨ」・「センケレ」・「センド」・「テマエ」・「ナチ」を用するが、年配層のあらたまに会話では、いろいろな用語が用いられる。
1. 普通の場合、「コナイダ」・「マエ」などを使



No. 10

四

-10-

二種の年齢層の用語である。
場合は「イチニチ」を使ってくる。
(例)
ヒントイかけたり仕事ハタツがで来る
ヒントイしてから出かけよう
美馬郡・三好郡の平地部で比較的多用
されるが他の地方での使用度は低い。

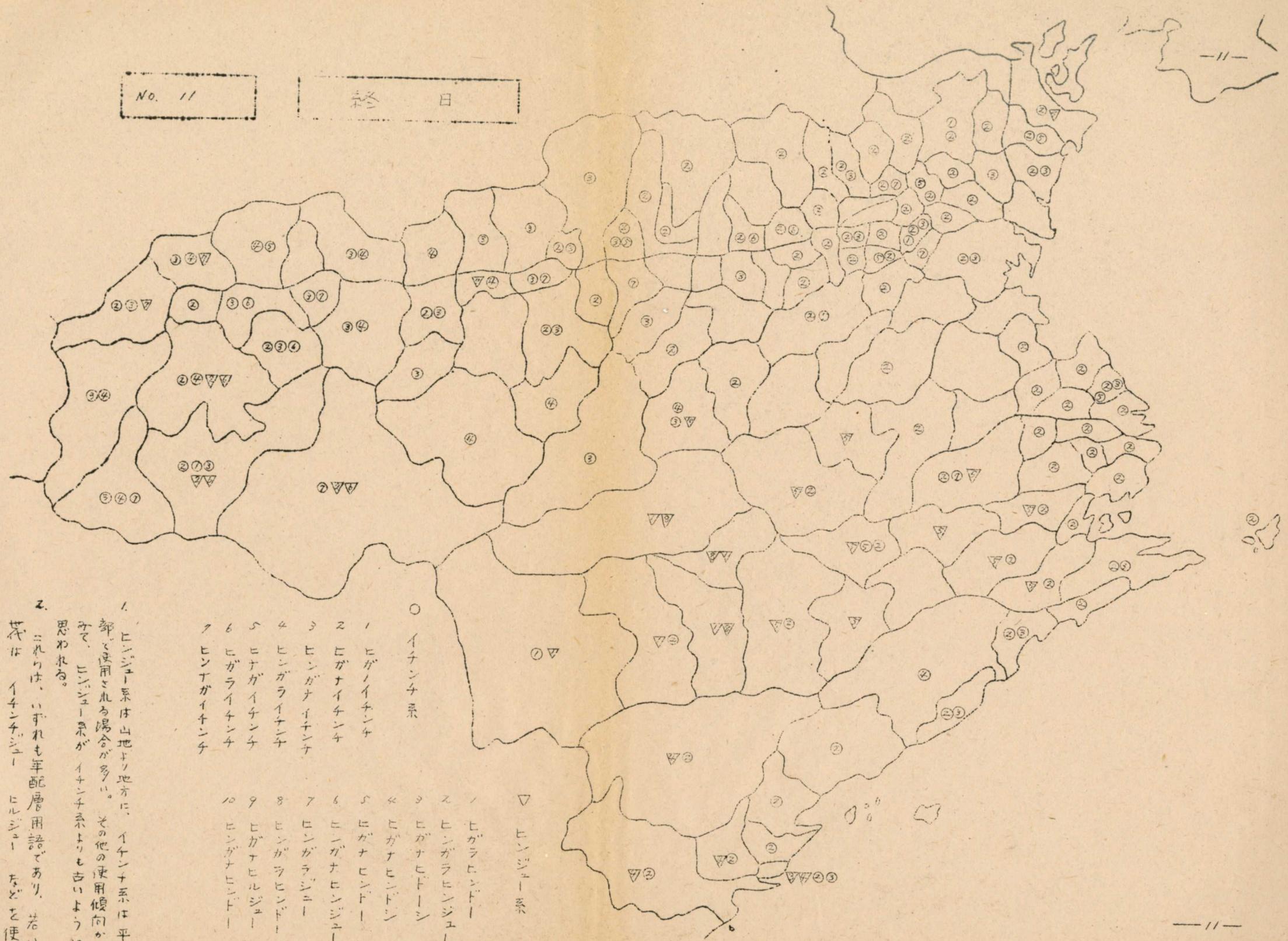
ヒヒヒヒヒ
シト丨スシ
テビトトト
イイイイ

∇ Δ \ominus \oplus \odot

— 10 —

NO. 11

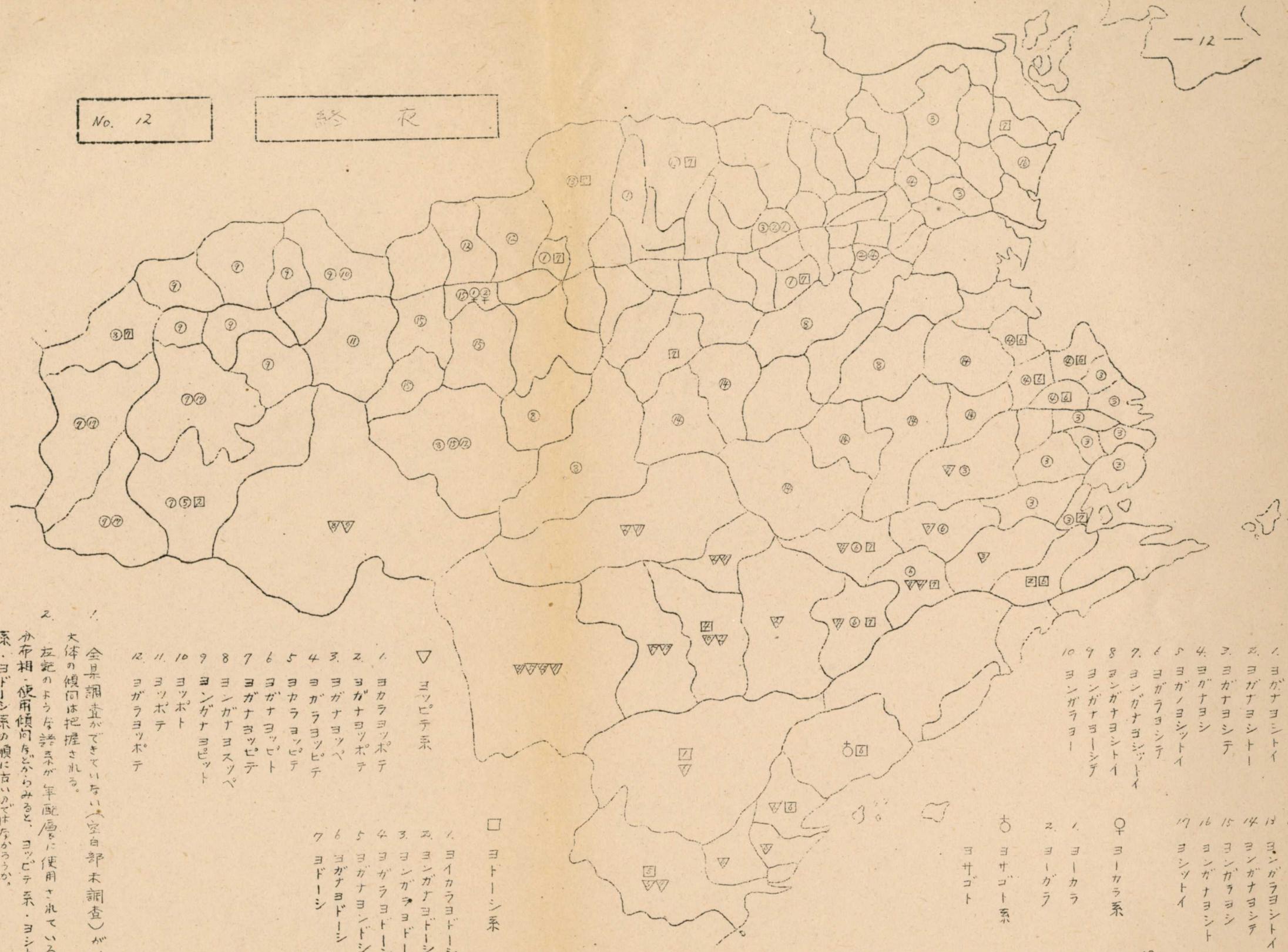
終日



— 12 —

No. 12

終夜



1. 全県調査ができるいな、(空白部未調査)か、
大体の傾向は把握される。

2. 左記のよくなき三本が年配層に使用されている。
分布相・使用傾向を分りみると、ヨツビ系・ヨシトイ
系・ヨドーイ系の順に古いのはいかうか。

3. ヨトーン系ヨドーイは若い世代も使用し、全県的
である。

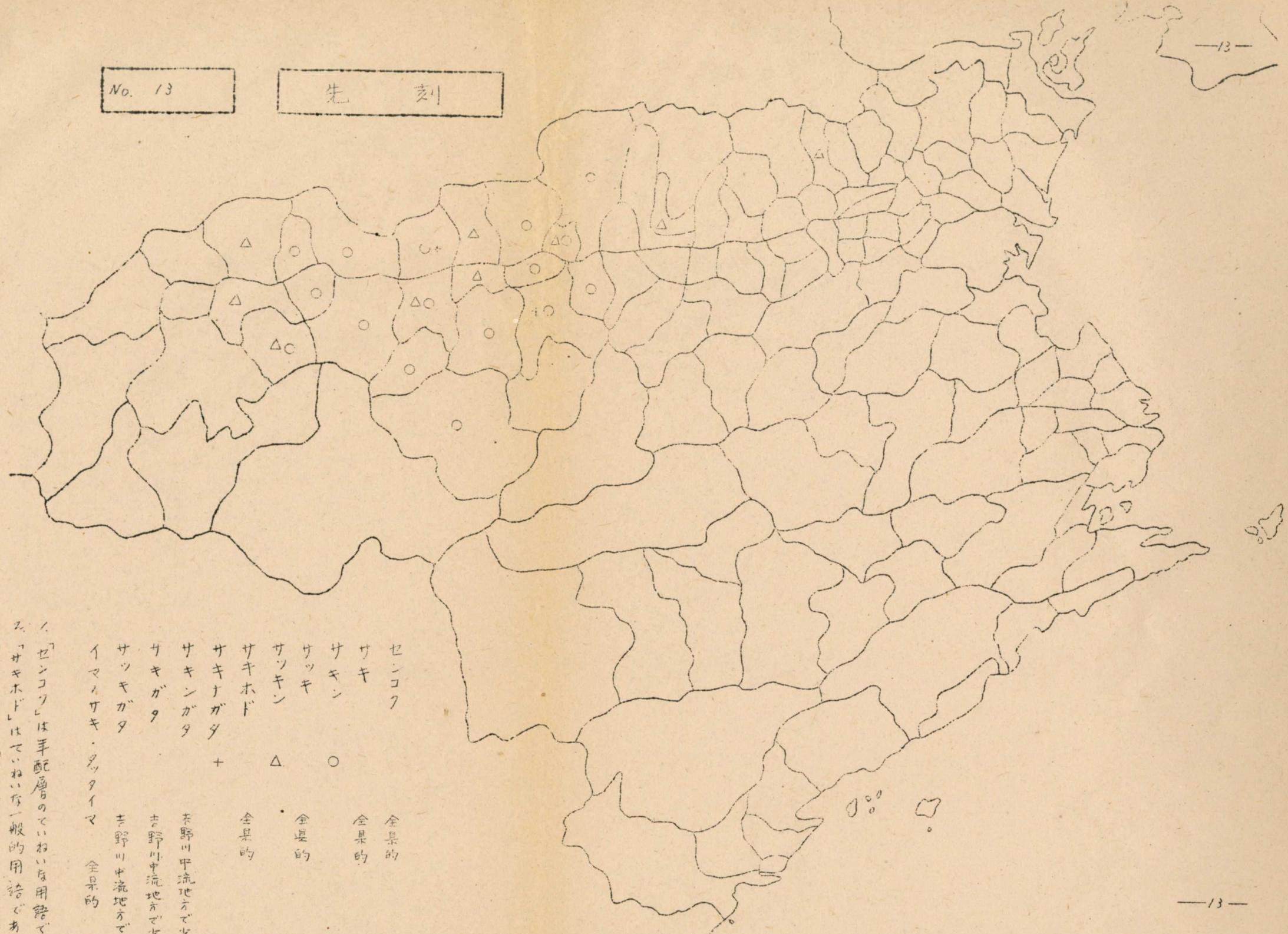
4. その他、全県的にヒトバンジューが使用されており
これが志しろ一般的である。

5. また、ヨルシュー、ヨナカシューなども少用する。
なお、ヨシトイ、ヨツビテなどの成立については
後記する。

No. 13

先 刻

—13—

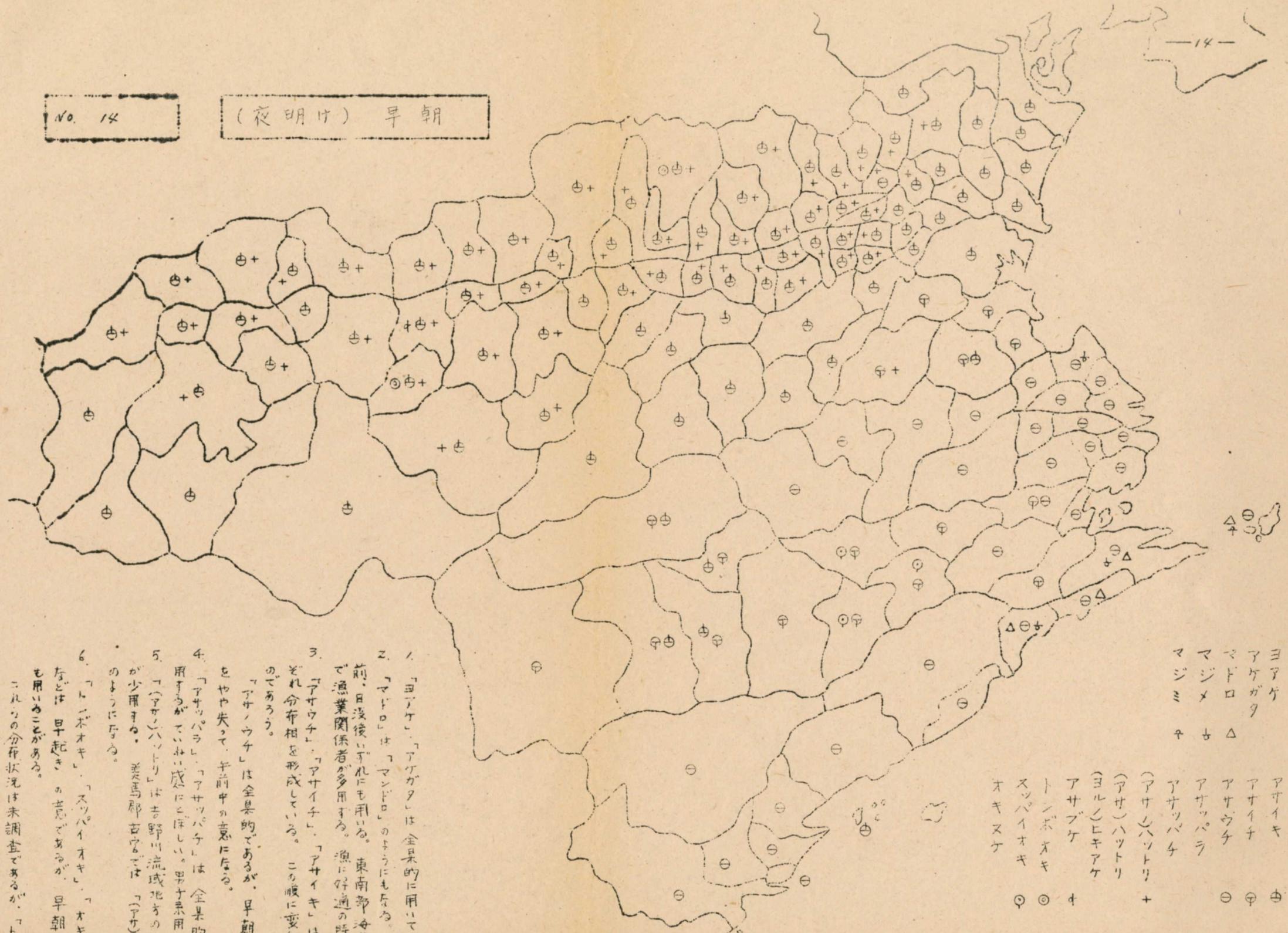


1. 「センコフ」は半配層のいねいな用語である。
2. 「サキホド」は「ねいな一般的用語である。
3. 「センコフ」、「サキホド」のよう、採移二三はどうしても用いる。
4. 「サキ」は全果的であるが、「サキン」、「サギン」は吉野川中流部で主として用いられている。
5. 「イマノサキ」、「タツタイマ」は時間的に短い直後の意で用いる。なお、「イマシガタ」を吉野川中流地方で用いることもある。

—13—

No. 15

(夜明け) 早朝

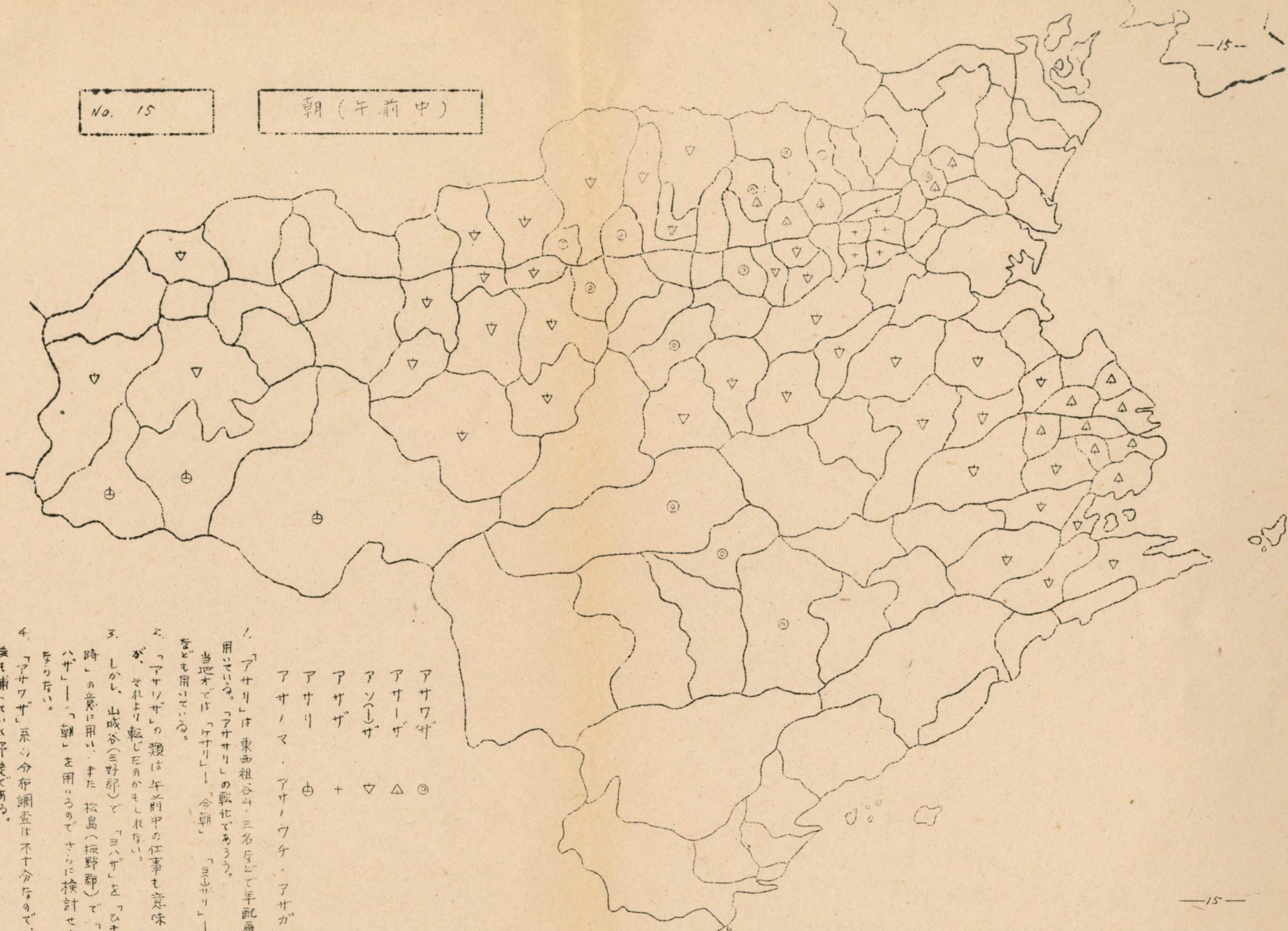


8. ハマジメレ、ハマジミ、などが東南部海岸地方に分布するようであるが今後調査する所定である。
9. 美濃郡半田では、アサブケガ少用される。
ヨツケーー深夜から類推である。

は吉野川流域に、「スンバイオキ」は那岐貝川流域に
用いられるようである。

No. 15

朝(午前中)



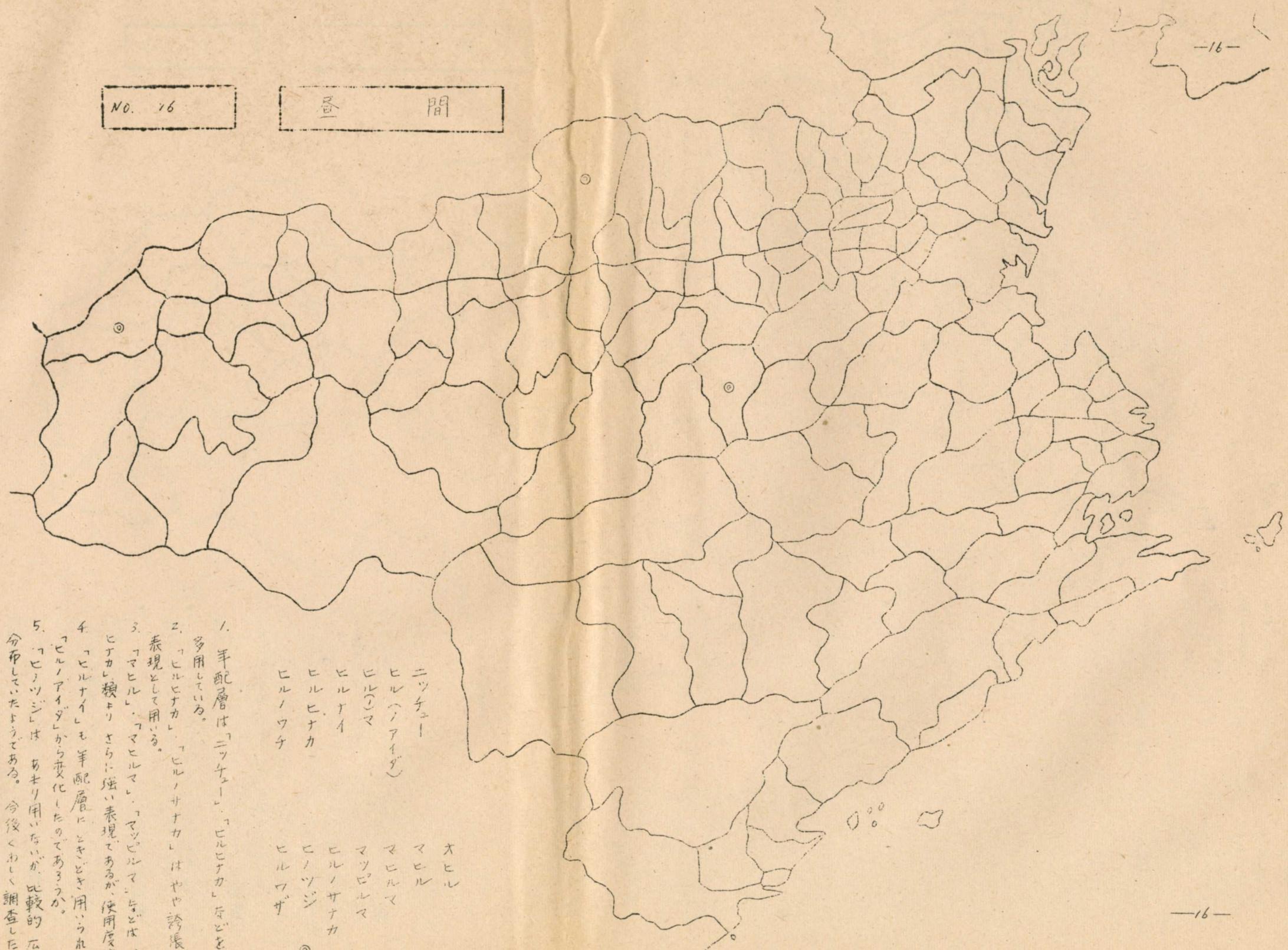
5. その他、「アソーマ」、「アサノウチ」、「アサガタ」などが全県的に用いられている。
「アサガタ」は「早朝」を意味する場合が多く、吉野川水系地帶で比較的多用されている。

4. 「アサワザ」系の分布調査は不十分なので、今後も補めていく予定である。
左記、「アサワザ」、「午前中の仕事」は、四回食事とどる農山村においては、一、二回の食事の間をさしている。

3. 「アサリザ」類は午前中の仕事も意味するが、それより軽じたのかかもしれない。
しかし、山城谷(三好郡)で「ヨハザ」を「ひまな時」の意に用い、また松島(板野郡)で「アサハザ」——「朝」を用ひうるのでさらに検討せねばならない。

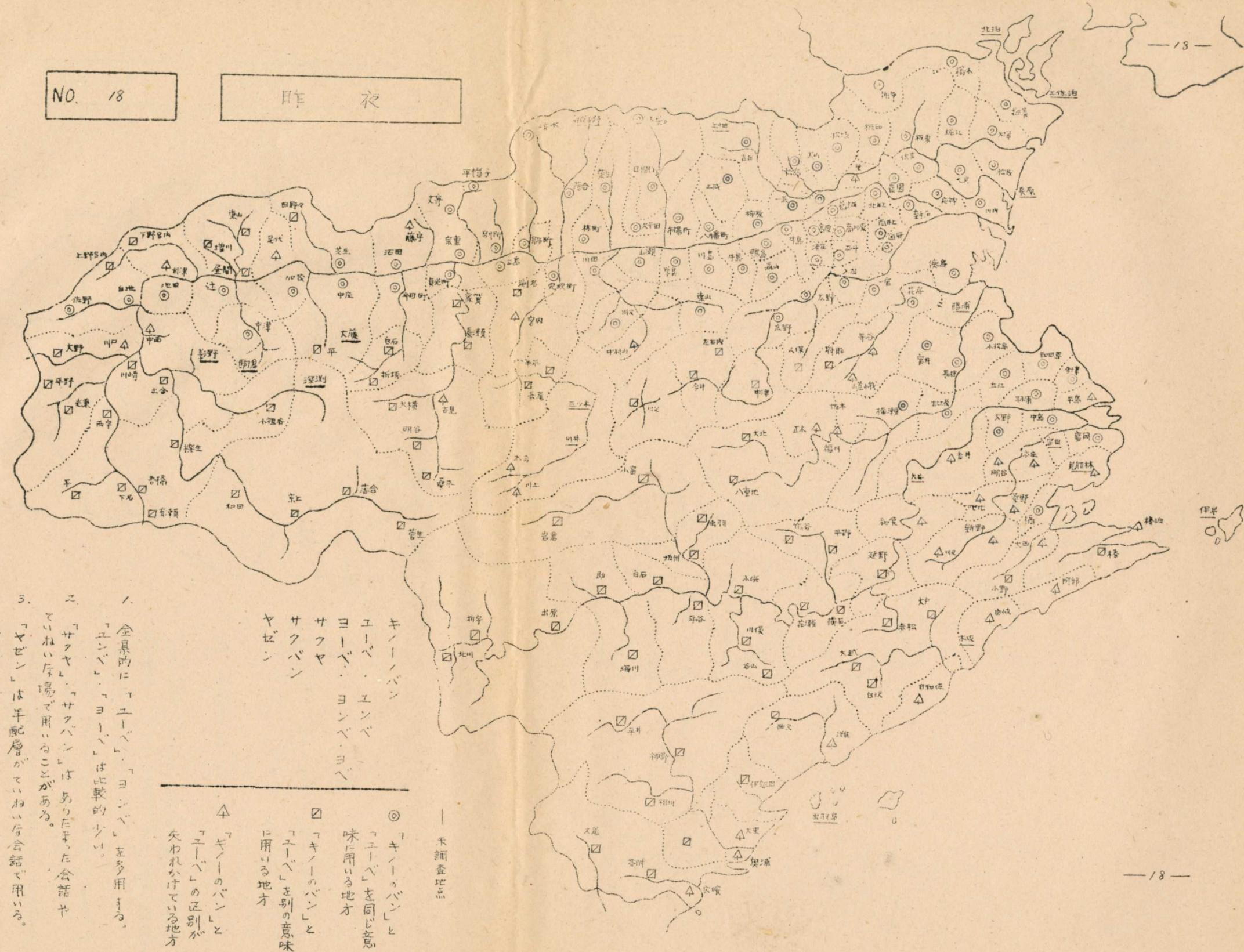
2. 「アサリザ」類は午前中の仕事も意味するが、それより軽じたのかかもしれない。

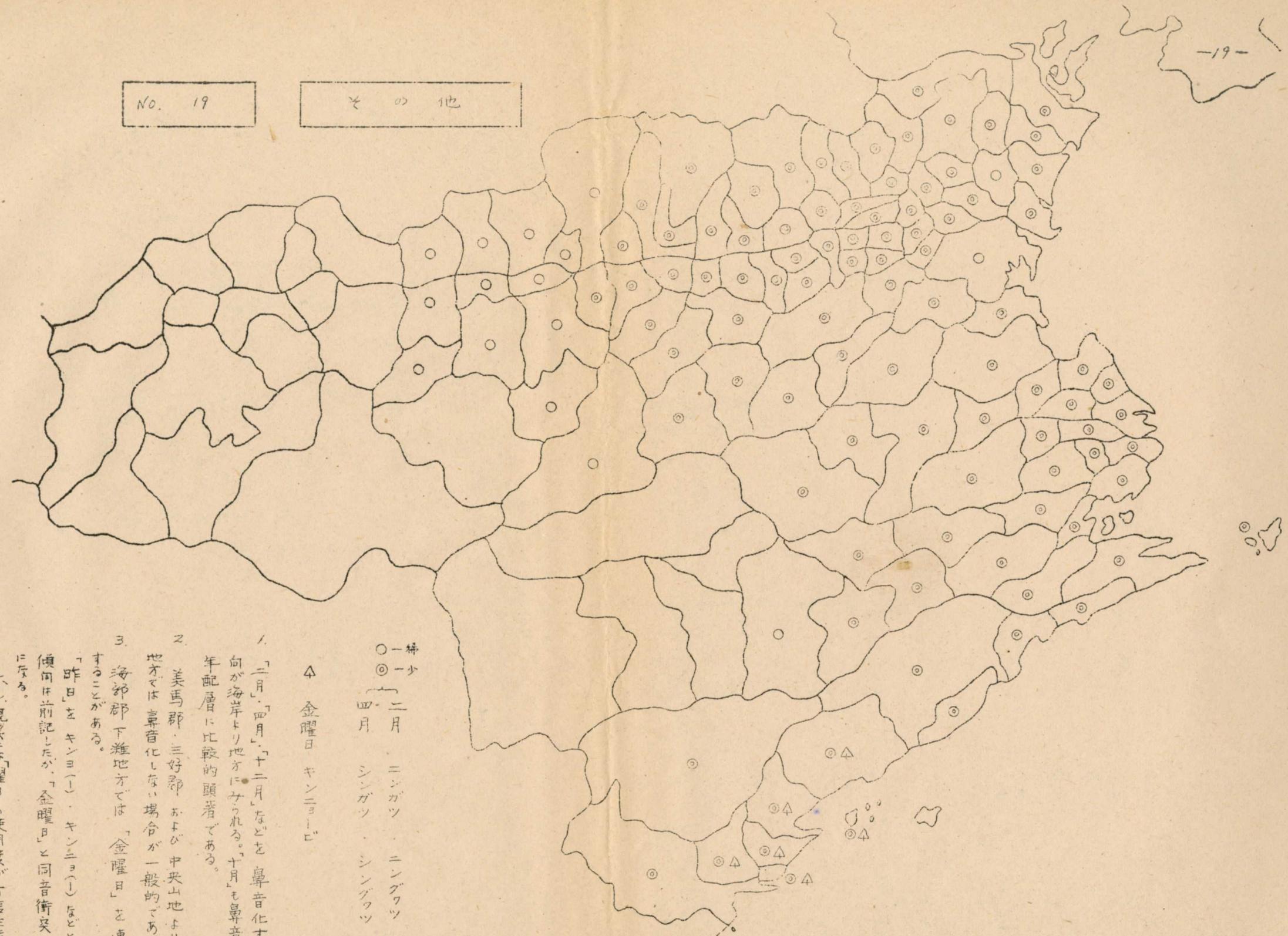
1. 「アサリ」は東西祖谷山、三名盆地で年配層が用ひている。「アサリ」の転化であろう。
当地では、「ゲサリ」——「今朝」、「ヨハザ」——「夜」なども用ひている。



NO. 18

昨夜





1. 「二月」、「四月」、「十二月」などを、鼻音化する傾向が海岸より地方にみられる。十月も鼻音化しやすい。
2. 年配層に比較的顕著である。
3. 美馬郡・三好郡・および中央山地よりの各地方では、鼻音化しない場合が一般的である。
4. 海部郡下灘地方では、「金曜日」を連声化することがある。
5. 「昨日」を「キンヨー」・「キンニヨー」などとする傾向は前記したが、「金曜日」と同音衝突することになる。
- しかし、現実には「曜日」の使用度が方言生活中で、低いためあまり問題にちりないようである。

「日あ時林しにひて前記したもを互総合し、表示すると、左のようになる。(昨日以前判)

左表から明らかのように用語の混乱は比較的少ない。

筆者、
今日の呼称の体系は、二此と、明日以後の表を考証して、
さういふことを爲す。

サツジン	キノベー	キンニヨ(一)	キンニヨ(二)	アト
川上・川西・川 東・西川早岐・日和佐・永 河内・三岐田・阿	美食・霸與・ 具東南洋に多く	アト	オト	イツサ

ホノオトツイ 音	サキオトツイ サキオトトイ サシオトトイ サケオトツイ サケオトトイ
城谷	浅川・早岐・阿部・椿・相生・立江
小石島・勝浦・徳島・国府・南三	巒間・牛内谷・若威・佐野地・山

サワオトツイ	三野
サオオトツイ	佐馬地
サイツイ	市場
サツイ	口山
木頭	東山
木頭	祖谷山
木頭	三繩
木頭	三名
木頭	山城谷
福原	福原
高鋒	高鋒
川上	川上
木頭	上木頭
平谷	平谷
坂州	坂州
天谷	天谷
宮浜	宮浜
赤河内	赤河内

「日の時算にてりて並別記したもりを合せ、義承すを」と左のトヨニテ有。」(月日人表)

「アシタト」、「アサツテ」と「シヤサツテ」、「ズヤ
サツテ」が一般的であるが、これと別に、地方的専用語が
「アシタト」、「アサツテ」と「シヤサツテ」、「ズヤ

左表から明らかのように、混用・混乱は「明日後日」と「明後日の翌日」にいちぢるしい。

諸体系の相互關係については今後考察する予定
であるが、(5)が本集における原体系に最もも近いので、
かうか。

	ア	明
	ス	日
		明
		後
		日
	シ	明
	マ	日
	サ	明
	ツ	日
	テ	明
	シ	日
	マ	明
	サ	日
	ツ	明
	テ	日

アサツティ
アサツトキ
口山・宮原・早
ヨハナ・サツテ
シマ(3)ハツテ

八
邵里

ヨイヤサツテ

ヨツサツテ

サシアサツテ

サノアサツテ

德島市
森 重 幸

国立国語研究所